
第 43 回 神 戸 港 港 湾 審 議 会

議 事 録

第43回神戸港湾審議会議事録

1. 会議の日時及び場所

(1) 日 時 平成28年5月19日(木) 午後3時00分開会

(2) 場 所 神戸市役所1号館27階 第2・3委員会室

2. 出席委員の氏名

(1) 学識経験者

宮 下 國 生
井 上 欣 三
黒 田 勝 彦
今 西 珠 美
岩 井 珠 恵
岩 佐 光一朗

加 藤 恵 正
竹 林 幹 雄
金 子 彰
毛 海 千佳子
石 橋 伸 子
玉 田 はる代

(2) 市会議員

徳 山 敏 子
岩 田 嘉 晃

山 本 じゅんじ
光 田 あまね

(3) 港湾関係者

新 尚 一
長 田 庄太郎
伊 藤 隆 夫
内 藤 忠 顕
佐 伯 邦 治
須 藤 明 彦
若 松 康 裕
堀 眞 琴

(代理 川 手 純 一)

(4) 関係行政機関の職員

荒 木 一 聡 (代理 濱 浩 二)
山 田 邦 博 (代理 小 野 正 博)
近 藤 悦 広 (代理 津 野 芳 隆)
秋 田 務 (代理 川 路 勉)
菊 川 正 博 (代理 山 下 政 廣)

以上、出席委員29名

欠席委員7名

3. 議事の経過概要及びその結果

(1) 副市長挨拶 午後3時00分

(2) 委員の紹介

(3) 開 会

(4) 委員の出席状況報告

委員総数 36 名中、出席委員 29 名であり、本会議は有効に成立していることを報告

(5) 会長選出

黒田勝彦委員を満場一致で会長に選出

(6) 議事録署名人指名

会長が議事録署名人として、石橋伸子委員と須藤明彦委員を指名

(7) 会長代理指名

会長が宮下國生委員を会長代理に指名

(8) 専門部会委員及び部会長指名

会長が次のとおり専門部会委員及び部会長を指名（○印は部会長）

①計画部会

○竹 林 幹 雄	井 上 欣 三
川 島 毅	金 子 彰
坊 やすなが	徳 山 敏 子
内 藤 忠 顕	鴨 頭 明 人
山 田 邦 博	近 藤 悦 広

②環境整備負担金部会

○宮 下 國 生	加 藤 恵 正
山 本 じゅんじ	岩 田 嘉 晃
新 尚 一	長 田 庄太郎
伊 藤 隆 夫	佐 伯 邦 治
若 松 康 裕	吉 岡 幸 治
秋 田 務	

なお、幹事についても、名簿の職にある者の就任が承認された。

(9) 神戸港港湾計画の一部変更について

山本技術担当部長から説明

(会議資料1 神戸港港湾計画の一部変更について(諮問)(写))

(会議資料1 (1) 神戸港港湾計画書(案) -一部変更-)

(会議資料1 (2) 神戸港港湾計画資料(案) -一部変更-)

[質疑等要旨]

(委 員) 本審議会は、道路事業についての住民対応に関して審議するものではないと承知はしているが、道路事業者は住民等の意見を聴きながら環境対策への取り組みが必要なこと、ポートアイランド・六甲アイランドにおいては交通体系の変化が起こることから、港湾関係者も一体となってまちの魅力を高めるような将来的な土地利用の検討を行うことが必要であることを、答申に盛り込むべきと思う。

(事務局) 欠席委員からも、同様の意見に加え、安全航行の確保に万全を期するため、今後も各段階

に応じて港湾関係者と調整を行うよう意見をいただいている。

(委員) 大阪湾岸道路の事業については、平成 20 年に兵庫県、神戸市、住民との間で三者合意が交わされているが、住民との調整がまだついていないのではないかと。現段階では時期尚早と考える。

(事務局) 本審議会は、大阪湾岸道路の事業そのものの議論をする場ではない。事業の具体化にともない、神戸港にとって必要な港湾施設について計画の変更をおこなうものである。住民との調整については、市長が指揮をとり、大阪湾岸道路の事業調整に関し新しい組織をつくることとなっており、この推移を見守りたい。

(委員) 大阪湾岸道路の西伸部については、神戸経済界全体の総意と考えている。みなと総局においても、地域住民に対して、極力、生活環境に悪影響を及ぼさないよう配慮願いたい。また六甲アイランドの南については、現段階から将来を見据えつつ、土地利用の検討を皆の知恵を結集して進めていくべきである。

(事務局) 六甲アイランド南については、現在、長期的な将来構想を検討しているので、その中で議論していきたい。

(委員) 大阪湾岸道路事業自体は平成元年ごろからずっとあった話であり、阪神淡路大震災があったものの、いつになったら着手するののかという思いであった。道路があって、物流が活性化していれば、神戸港の復活ももっと早かったのではないかと考えている。阪神高速等の慢性的な渋滞解消のためにも、早期に事業化して欲しい。

(委員) RC4/5 の水深を 16 メートルに下げる件について、1.3 万 TEU クラスの船が満載で入れなかったという話は聞かない。今後の見通しというだけで、多大な投資を行うのは疑問である。

(事務局) 現在、コンテナ船は神戸港の施設に合わせて入港いただいております。神戸港に入るには一定の制約がかかっているというのが実態である。大型船発注の情報も入っており、更なる大型化は間違いない。神戸港が寄港地からはずされるという危機感を大いに持っている。国内・国外諸港の状況からも、16 メートルとして計画し大型化に備えたい。

(委員) 道路について、大きな港、あるいは世界的な港湾になっているところで、港湾の港頭地区に高速道路が直接入っていない港の方が珍しい。

また、喫水の話についてであるが、船社にとっては、港の施設に合わせ積載を調整する「足切り」は負担となる。

世界的な競争にさらされている港湾にとっては、必要最低限の施設は整備しないと選んでももらえない時代になっており、これは世界の常識である。

(委員) 神戸港は国際コンテナ戦略港湾として、官民挙げて港勢拡大に努めているところである。

このためには、基幹航路である北米航路・欧州航路の維持・拡大に注目し対応していかなければならない。この基幹航路においては、現在船舶の大型化がものすごいスピードで進んでおり、水深 16 メートルというのは、最低限とは言わないまでも避けては通れない話である。

同時に、基幹航路を維持するためには、アクセスについてもしっかりとした形をとらなければならず、大阪湾岸道路西伸部は、必要不可欠な計画である。

(委員) RC4/5 の水深 16 メートル化について、今回の港湾計画変更後、実際に実現するまでにはどれくらいの手続きと時間がかかるのか。

(事務局) 一般的に、審議会で議論いただく港湾計画と実際の工事とは、直接リンクしていない。ただ、今回の変更に関しては、港湾管理者として、一日も早く完成させたいという思いがあり、

これから国等との協議に入っていきたい。

(委員) 神戸港のコンテナターミナルについては、ハード面だけでなく、ソフト面も重要であると考えている。

現在、船会社においてはアライアンスというかたちで、サービスを提供しているが、このアライアンスにも世界的に大きな再編の流れが起きている。こうした中で、ある程度の融通が港のほうでできれば、効率よく競争力のある港になることができると思う。

(事務局) 現在、国際コンテナ戦略港湾として、港の能力を高めるため、官民協力で取り組んでいるが、まずはここ 20 年の世界からの遅れを取り戻すためにも、世界で戦っていただけるハードの整備を進めている。その上で、計画部会の中の将来構想検討委員会において、神戸港のあり方について長期的な検討をすすめており、その中で効率的なあり方についても議論していきたい。

(委員) ビジネス面からいうと、コストとスピードの 2 点で港が選ばれる。それを考えると、神戸港の対応は、世界規模で見ると非常に遅い。これでは、競争相手である他国の港に追い抜かれてしまうのも無理はない。

あまり細かいことに捉われず、大きな見地から判断いただき、水深の問題にしても湾岸線の問題にしても、スピード感を持って実行していただきたい。

(事務局) この事業は国の事業として行われるため、スピードアップのためには、国の予算を早急に獲得することが重要と考えている。市長を筆頭にごんばっていただきたいので、ご協力をお願いしたい。

(委員) 南海トラフ地震による津波の影響が心配されるが、安全面についてはどうか。

(事務局) 影響が懸念される場所については、補助防波堤を設置するなどの対応をとる予定である。

それ以外については、計算上影響がない、又は対策可能な範囲であると考えている。

以上の審議の結果、1名の委員から原案反対の表意があり、採決を行った結果、賛成多数により原案を可決した。ただし、審議の中で多数の意見があったことから、会長より、附帯意見を附し、答申を作成する提案があり、この提案についても了承された。

(10) 臨港地区の変更について

山本技術担当部長から説明

(会議資料2 臨港地区の変更について(諮問)(写))

(会議資料2(1) 臨港地区の変更について(案))

以上の審議の結果、1名の委員から原案反対の表意があり、採決を行った結果、賛成多数により原案を可決した。

(11) 専門部会報告

竹林幹雄委員から第23回から第25回までの計画部会議決事項の報告

・平成26年7月14日に開催された第23回計画部会議決事項の報告

(会議資料3 第23回計画部会審議事項(平成26年7月)の概要)

(会議資料3(1) 神戸港港湾計画の軽易な変更について(諮問)(写))

(会議資料3(2) 神戸港港湾計画書-軽易な変更-(平成26年7月))

・平成27年6月4日に開催された第24回計画部会議決事項の報告

(会議資料4 第24回計画部会審議事項(平成27年6月)の概要)

(会議資料4(1) 神戸港港湾計画の軽易な変更について(諮問)(写))

- (会議資料4 (2) 神戸港港湾計画書-軽易な変更- (平成27年6月))
(会議資料4 (3) 臨港地区の変更について (諮問) (写))
(会議資料4 (4) 臨港地区の変更について)
- ・平成28年1月22日に開催された第25回計画部会議決事項の報告
(会議資料5 第25回計画部審議事項 (平成28年1月) の概要)
(会議資料5 (1) 神戸港港湾計画の軽易な変更について (諮問) (写))
(会議資料5 (2) 神戸港港湾計画書-軽易な変更- (平成28年1月))
- 宮下國生委員から第34回及び第35回環境整備負担金部会議決事項の報告
- ・平成26年12月19日に開催された第34回環境整備負担金部会議決事項の報告
(会議資料6 港湾環境整備負担金に関する負担対象工事の指定について (諮問) (写))
 - ・平成27年12月24日に開催された第35回環境整備負担金部会議決事項の報告
(会議資料7 港湾環境整備負担金に関する負担対象工事の指定について (諮問) (写))
(会議資料7 (1) 神戸市港湾環境整備負担金条例・同施行規則)


(12) その他


神戸港の将来構想の検討状況について、山本技術担当部長から説明

(13) 閉会 午後4時46分

上記議事録は議事の内容を正確に記録したものであることを証明する。

平成 28 年 6 月 30 日

会長 黒田勝彦 

委員 石橋伸子 

委員 須藤明彦 